

## 本学における 「SDGs」の取り組み

(持続可能な開発目標)

〈特集〉

研究室訪問／2020年4月 健康医療科学部を設置

学科TOPICS／Office information



# 本学における「SDGs」の取り組み

(持続可能な開発目標)

SDGsとは、2001年策定のMDGs（ミレニアム開発目標）を引き継ぐ国際的な開発目標です。2015年9月の国連サミットで採択され、2016年から2030年までに実現することを目指すもので、193カ国が合意しました。日本でも外務省主導で周知が進み、企業や自治体、大学等の教育機関でもその姿勢が問われています。そこで神奈川県立神奈川工科大学の取り組みや進捗状況について、本学SDGsのワーキンググループのリーダー・小室貴紀教授（電気電子情報工学科）に話をうかがいました。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



### 大学として積極的にSDGsに取り組む意義

昨今、地球的規模の課題となっている地球温暖化やマイクロプラスチックごみによる海洋汚染などの環境問題をはじめ、エネルギー、貧困や飢餓、教育、ジェンダーなど多岐にわたる領域において解決すべき問題が山積みです。そのため、SDGsでは17のゴールと169のターゲットを設定し、「地球上の誰一人として取り残さない(=leave no one behind)」ことを誓うものとして周知させ、国内外でその推進が進んでいます。

「SDGsに取り組まないからといって法的な罰則はありませんが、国連をはじめとする国際的機関で必要とする物資はSDGsに熱心な企業から調達するという動きとなっており、企業もまた下請け等の子会社にSDGsに準拠することを求め始めています」と小室教授は説明します。つまり事実上、SDGsに取り組まなければ企業活動が成立しにくくなる動きがつけられつつ

あり、大学もまた、選ばれる大学として改革が必須です。

本学では2019年6月、小宮一三学長の指揮のもと教授陣4名の他、研究支援本部、企画入学課から人材を集め、SDGsにどのように取り組むかを考えるワーキンググループを発足させました。積極的に取り組む理由について、小室教授の答えはきわめて明快です。「SDGsの17のゴールは、人類がこの地球に住み続けるためには必要なこと。そしてどの項目も、『良いこと』だからです。良いことを推進するのに、ためらう理由はありません。」

一方で、SDGsが掲げるテーマの中には本学がすでに取り組んできた教育・研究は少なくありません。特に17のゴールのうち「4:質の高い教育」「9:産業と技術革新の基礎をつくらう」「12:つくる責任 つかう責任」は、理工系大学としてこれまでに豊かな実績があります。

## 取り組み例はSDGsの採択以前から 多数実践してきた理工系の矜持

本学がすでに取り組んできた例をいくつか紹介しましょう。「3:すべての人に健康と福祉を」「17:パートナーシップで目標を達成しよう」は、2018年度に文部科学省に採択された本学のブランディング事業「神奈川県先進工科教育研究拠点:全国のモデルとなる先進高齢者支援システムの開発と地域社会への展開」において実践しています。研究内容が健康と福祉に直結するだけでなく、地域のステークホルダーとなる行政、企業、高校、地域住民の方々との連携を進めているからです。一組織では達成困難でも、関連組織との柔軟なつながりで可能性が広がります。「企業と組むことで学内の研究が社会に実装できるため、外部とのパートナーシップはとて重視しています。」

実際、ブランディング事業以外にも、本学では外部との連携を密に行ってきました。応用化学科の高村岳樹教授による「SDGs活動支援拠点形成に向けた大学発環境教室プログラム」では環境団体と組み、「河川の水温を診てみよう!」「マイクロプラスチックを調べてみよう」など河川環境を測る活動を行い、本学の学生が小学生や高校生にレクチャーしています。これはパートナーシップだけでなく、小学生、高校生、本学の学生にとって「4:質の高い教育」を提供するものです。川は海に流れていくので、「14:海の豊かさを守ろう」にも合致し、広義では「13:気候変動に具体的な対策を」や「15:陸の豊かさを守ろう」にも関わることでしょう。

また、「KAIT Stop the CO<sub>2</sub> Project」は2009年4月から環境教育として導入され、すでに11年目となりました。これはSDGsが制定される以前から行っている活動ですが、SDGsの目標の一つである「13:気候変動に具体的な対策を」を先取りしていると思います。このプロジェクトは学科の垣根を超え、全学科の学生が受講可能で、1年次から段階的かつ学際的に環境問題を学んでいます。既に200人以上が受講しており、卒業生は社会に大きく貢献していることでしょう。



横浜市開港記念館にて執り行われた登録式にて(黒岩祐治神奈川県知事より登録証授与の様子)

## 全学的に取り組みを再構築しながら 学生の「社会を見る目」を養う

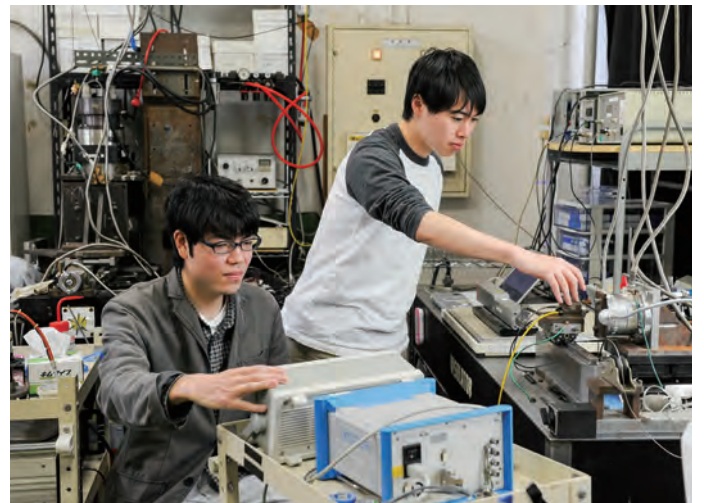
去る10月3日には、神奈川県「かながわSDGsパートナー」に本学が登録されました。これは前出の先進高齢者支援システムの開発を地域で行っている「ブランディング事業」が評価されたもので、SDGsに取り組む地元企業との関係をより強化させていくものとなります。

また、「SDGs活動支援拠点形成に向けた大学発環境教室プログラム」は、神奈川県が主催する「2019年度大学発・政策提案制度」においても採択されています。

「高大連携と協定を結ぶ高校の中には、すでにSDGsを実行している学校もあります。SDGsにおいてもうまく連携させれば、より意識の高い学生の育成につながるでしょう。また、他大学との協働も視野に入れていきますし、単独ではSDGsに貢献しにくい中小企業などにも働きかけたいと思っています。」

栄養生命科学科では、食糧の廃棄問題を扱う授業もあり、貧困や飢餓を考える導入にもなっているとのこと。この授業をひな形として、全学にSDGsに関する教育を広めていく計画を進めています。

このように、SDGsが採択される以前から、本学では理工系大学としての教育を行う中で持続可能な開発への貢献をしてきました。現在、SDGsに関わる教育・研究・活動を集約し、体系的に再構築する作業を行っているそうです。「SDGsを通して学生には『社会に対する目』を養ってほしいと考えています。同時に、SDGsを教職員、学生に周知しながら、外部との連携をさらに深めていきます。継続的な発展のために、出来ることから着実に進めていきましょう。」



# 研究室訪問

Laboratory visit

## 大規模災害時における被災者管理システムの研究

Q 研究内容について教えてください

過去の大規模災害時の避難所における様々な課題点を教訓に、大規模災害時にスマートフォンなどから避難者情報を入力して名簿化し、無線通信などで発信できる避難所管理システムの研究に取り組んでいます。具体的には、通信や電力などのライフラインが断たれた状況下においても、避難所内の被災者情報、及び、救援ニーズの収集・発信や、避難所で生活する被災者の健康状態を管理するシステムの実用化に向けた研究で、被災者の容態に応じてトリアージで色分けを行い適切な避難場所へ迅速に誘導するシステムも研究しています。



赤坂 幸亮 さん

大学院電気電子工学専攻博士前期課程2年(安部研究室)

本研究は3年次の企業連携プロジェクトでスタートし、今年で4年目になります。避難所管理システムという小型のコンピューターや電子問診票の開発など、何が必要か？何があればより良くなるのか？を考えて研究を広げました。研究を進める上で強く意識しているのが「期限」です。限られた時間の中でどのような成果をあげるかを大切に考え、計画性をもって研究開発をするなど、常に期限を意識しながら取り組んでいます。今年9月にドイツで開催された国際学会で研究成果を発表し、学生賞 (Student Award) を受賞しました。発表の準備は本当に大変でしたが、先生にご指導いただき、早めに計画を立て効率よく作業を進めることができました。

Q この研究は社会でどのように役立つと良いと思いますか？

大地震をはじめとする大規模災害では、多くの人々が避難所での生活を強いられ、普段の生活よりも息苦しく、強いストレスのため避難所で体調を崩し病気になる、最悪亡くなれるケースもあります。本研究を通じて、被災者の方が早く普段の生活に戻れるよう支援していければと考えています。

Q これからの目標について教えてください

来年3月の学会発表に向けて、クラウドサーバを用いて、被災者の持つスマートフォンから家族の在席する避難所や在席情報、そして、被災状況などを地図上で確認できるシステムの開発に取り組んでいます。卒業後は公務員 (電気技術職員) として、市民のために働ける技術者、災害に対して率先して動ける人材になれるよう頑張ります。



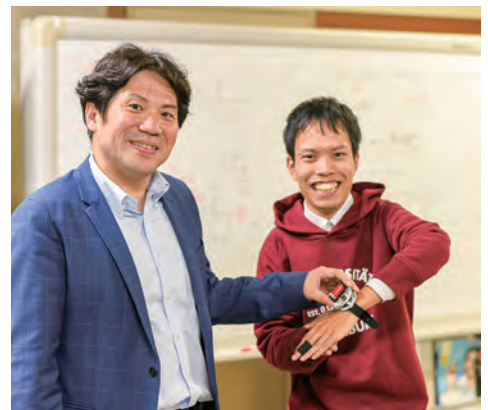
### 安部研究室はどんな研究室？

学年の隔たりのない雰囲気の良い研究室です。大学院生が4名、学部4年生7名が在籍し、週2回「企業連携プロジェクト」の3年生も一緒に活動しています。研究についての意見交換なども活発で、みんなで現代社会に存在する課題解決をテーマに日々研究に取り組んでいます。



### 安部恵一准教授から赤坂さんへのメッセージ 『「人のために何とかしたい」という志が研究の原動力!』

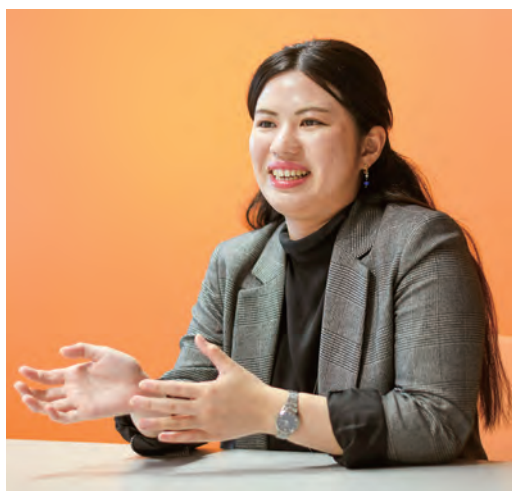
とても真面目で「人のためになる研究をやりたい!」という熱い気持ちをもった志の高い学生です。大学院での研究を通して問題解決能力や問題発見能力、プレゼンテーション能力など様々な能力を大きく開花させました。今年の9月には、国際会議IWIN2019では「Student Award」を受賞し、現在も国際学会誌から論文掲載の招待を受けています。次年度からは横浜市役所の電気技術職員として働く予定ですが、彼なら高い志を持って素晴らしい仕事をしてくれるでしょう。大学院修了まであと僅かですが、現在の研究を完成させられるよう頑張ってください。



高度な専門技術者・研究者の養成をめざす神奈川工科大学大学院では、現在204名の大学院生(博士前期課程184名、博士後期課程20名\*4月現在)が在籍し、各分野の研究に取り組んでいます。

実験や検証に粘り強く取り組み、その結果から導き出した成果を携えて国内外の学会などで発表していく。物怖じせずに進んでいく姿からは、次世代を担う“若き研究者”としての誇りと頼もしさを感じられます。本学大学院生は、どのような研究に組み込み、それはどのように社会に役立っていくのでしょうか？各専攻から大学院生の「研究する姿」をお伝えします。

## 写真撮影行動に基づく嗜好抽出機能を備えた観光地推薦システム



柴本 恵理子 さん

大学院情報工学専攻博士前期課程1年(鷹野研究室)

本研究では、機械学習\*によって写真に写っているものを分析することから始まります。画像認識の精度を上げるためには数万枚もの写真が必要になるため、写真を集めることが何より大変でしたし、今も集め続けています。また、時間の経過と共に移り変わっていく人の好みは、AIなどで抽出していくこと自体が非常に難しいといわれています。とても難しい分野ですが、3年次から4年次の研究成果を論文にまとめ、4年次の3月には第81回情報処理学会全国大会に参加。学生奨励賞をいただきました。さらに、今年8月にカナダで開催された「Pacific Rim 2019」でも発表し、手応えを感じています。

\*機械学習

多くのデータをもとにパターンや特徴を見つけ出し、それらを自動的に判別する、または、予測するような機構を持たせるための技術。

### Q この研究は社会でどのように役立つと良いと思いますか？

「旅行に行きたいけれど、場所が決まらない」というときに、ユーザーの嗜好にあった最適な観光地を推薦することで、旅先を決定するサポートができます。また、観光地の推薦をすることで、旅行を通してその人自身の新たな経験や知識を獲得することにも役立つのではないかと考えています。

### Q これからの目標をお聞かせください。

大学院での2年間で精度を高め、より適切に撮影者の嗜好を抽出できるようにしたいです。将来は、ユーザーが旅行に行きたいと思った時にスマートフォンが「○○に旅行はいかがですか」と教えてくれるような技術に携わりたい。そんな検索をする手間さえいらぬシステムを手がけてみたいという気持ちがあります。

### Q 研究内容について教えてください

AI技術を活用し、写真撮影行動に基づいて嗜好を抽出し、それに合った観光地を推薦するという研究に取り組んでいます。近年、誰もが日常的にスマートフォンで写真を撮影したり編集をしたり、SNSで共有したりということが気軽にできるようになりました。私の研究では写真を撮影・編集するという行動に着目することで、ユーザーの観光地写真に対する関心の度合いを算出し、興味や関心がある場所を分析。その結果に応じてユーザーに適した観光地を推薦します。日常的な行動である撮影・編集をした写真を使用するため、その他の自発的な行動を必要としない点

### 鷹野研究室はどんな研究室？

鷹野研究室では、知的活動を支援するデータベースと題して、情報検索・情報推薦の研究を行っています。今年度は大学院生が4名、学部4年生が7名で、学部生が研究のことで困っていたら、大学院生は自分の研究とはあまり関係がない分野であっても一緒に調べるなど、先輩後輩で仲の良い研究室です。



### 鷹野孝典教授から柴本さんへのメッセージ さらに上を目指して、誰も見たことが ないような優れたシステムの完成を！

情報分野から電気通信分野までの幅広い専門知識、さらに2度の海外研修参加や海外留学生との国際交流と興味の範囲が広く、自分でやりたいと思うことに対して積極的に行動を起こして身につけていく姿勢がとても良いと思います。また、全体を見渡してきちんと主張する能力も非常に高いと感じます。現在取り組んでいる「写真を活用して人の気持ちを推定する」という研究は、世の中の人を幸せにする要素が高い技術です。修了までの1年半でさらに上を目指して、誰も見たことがないような優れたシステムやサービスとなるように目標を達成させてください。



# 改組再編に伴う新学部 健康医療科学部を設置

看護学部看護学科、応用バイオ科学部栄養生命科学科、工学部臨床工学科の3学科は、2020年度4月に健康医療科学部のもとに再編します。健康医療科学部は、理工系大学の利点を活かし、国家資格取得+αの教育と研究を展開します。また、今後のチーム医療に向けて、3学科の学生が学ぶ交流の場を考え、コミュニケーション力や協調性を高めていく環境づくりをめざします。

看護学部  
看護学科

応用バイオ科学部  
栄養生命科学科

工学部  
臨床工学科

## 健康医療科学部 Faculty of Health and Medical Sciences

看護学科  
Department of  
Nursing



管理栄養学科  
Department of  
Nutrition and Life Science



臨床工学科  
Department of  
Clinical Engineering



### 看護師・保健師養成課程



入学定員  
**80名**



2018国家試験合格率  
(看護師)  
**100%**

### 管理栄養士養成課程



入学定員  
**80名**



2018国家試験合格率  
**98.5%**

### 臨床工学技士養成課程



入学定員  
**40名**



2018国家試験合格率  
**93.1%**

全国平均合格率 77.5%

※栄養生命科学科は管理栄養学科に名称を変更します。

## なぜ工科大学で「健康医療科学部」?

### 看護師・保健師、管理栄養士、臨床工学技士の国家資格取得には理系分野の知識が必要です

本学が設置する学科に対応する、看護師・保健師、管理栄養士、臨床工学技士の4つの国家資格は、大学等の勉学で受験資格を得て、毎年1回行われる国家試験で合格ラインを超えないと資格を取得することができません。これらの国家試験問題はいずれも、化学、生物、物理、数学に関連する理系分野の知識、思考力の有無を問う問題です。このように考えると、理系大学がこれらの国家資格に関する学科を設置してこなかったことのほうが不思議に思えます。

### 工学、情報学等との連携は理工系大学ならではの

理系の基盤教育を行い、実験研究を行ってきた理工系大学である本学は、本学既存の工学、情報学等との連携をしながら、これからの看護師・保健師、管理栄養士、そして臨床工学技士の養成を進めていきたいと考えたことが設置の理由です。

## 卒業研究中間発表会を実施

9月18日(機械力学分野、流体力学分野、教職センター)、9月28日(材料力学分野、熱力学分野、航空宇宙学分野、基礎教育研究センター)の2日に分けて卒業研究の中間発表会を実施しました。これは、前期から夏季休暇期間にかけて実施した内容および今後の研究計画を発表し、教員や他の学生からのアドバイスを得ることにより、研究への理解を深め、今後の研究へのモチベーションを上げてもらうことを目的に今年度より実施したものです。

私の研究室でも夏休み明けに発表があることから、講義のない8、9月も研究を進め、要旨の作成、発表の準備と例年以上に懸命に研究に打ち込んでいました。多くの学生にとっては初めての研究発表で緊張したようですが、堂々と発表し、先生方の厳しい質問にも懸命に答えていました。

全体では89件の発表があり、順調に進んでいるテーマも苦労しているテーマもありましたが、今後の研究活動においてやる気が出たのではないのでしょうか。12月末の卒業研究の発表、2月の卒業論文の提出に向けてさらに研究が進んでいくことを期待しています。

(文責:機械工学科准教授 林 直樹)



## 2019年度「航空宇宙プロジェクト」最終評価実験を実施

3年次前期「航空宇宙プロジェクト」は、航空宇宙におけるプロジェクト開発の手法を修得するために特定のミッションを設定し、グループ演習を通してプロジェクトの遂行方法を学び、さらに、航空宇宙分野で将来活躍するために必要なチームワーク、問題解決策を得るために知識を応用する方法、解析・実験手法を考案する能力を身につける講義です。7月19日、自動車工学棟(V-11室)にて、最終評価実験を行いました。

本実験は各6名、3班に分かれて、超小型衛星「キューブサット」への搭載を想定した太陽電池パネルの展開機構の開発、設計、製作および試験までを行いました。各班ともキューブのサイズは10cm四方の立方体に収まるように作成。展開した際の太陽電池パネルの面積が大きくなるように各班とも工夫をしました。

<各班の実験内容>

1班:コンベックス(メジャー)を使用して展開。展開面積が最も大きくなりました。

2班:無線を使って外部から展開する命令を与えた。

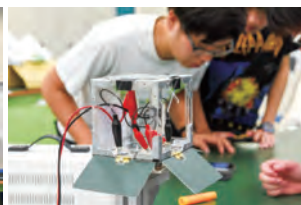
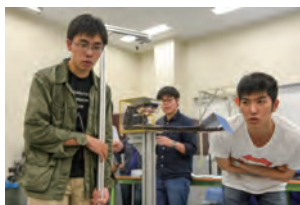
3班:電流を流すと筋肉のように動く「バイオメタル」という素材を使用して展開を試みた。

最終評価実験では、制限時間20分以内でセッティングから試験の終了までを行いました。

各班とも試験の直前まで調整を行い、無線で制御した班は、はじめはモーターがうまく駆動せず悪戦苦闘していましたが、無線による外部からの命令で最終的には想定通り展開をすることができて、各班とも展開に成功しました。

また、最終試験の翌週には、今回のプロジェクト成果の報告会を実施。前期を通して工夫した点、失敗した点等、各班とも懸命に発表を行いました。

本講義を通して、一つの課題に取り組む中で、様々な「失敗」とそこからの「克服」を体験したことは、今後の卒業研究へと繋がることでしょう。



各班とも太陽パネルの展開に成功した

## 幼児・小学生向け「科学実験教室」を開催

8月23日、富士電機株式会社(東京都日野市)が主催する地域貢献活動(2019 富士電機コミュニティフェスティバル)に、電気電子情報工学科3年生から大学院生の24名が参加しました。本学科からの参加は今年で8回目となります。今年は、幼児から小学生とその保護者に実験を体験してもらいました。

テーマは、「ぶにぶにウォーター」、「プンプンゴマ工作」、「プロペラ工作」、「フライパン工作」、「スライム」、「アルカリと酸で花をつくらう」の体験型実験と、「PICマイコンを用いたLEDゲーム」のゲーム系でした。学生は4月からテーマ案、プレ実験、安全性などを検討し、時間を掛けながら準備を進めてきました。実験教室の時間は2時間半、その間に約300名程度の幼児・小学生が参加しました。終了時間をすぎても沢山の子供も楽しんで実験に取り組んでいました。学生にとっては、教える側に立つため、日頃は味わえない良い経験をしたと思います。

本取り組みは、小室研究室、瑞慶覧研究室、工藤研究室が連携して推進しています。

(文責:電気電子情報工学科准教授 工藤 嗣友)



スライム作りの様子



LEDゲームの様子

## 電気電子工学専攻の大学院生が静電気学会で論文賞を受賞しました

大学院電気電子工学専攻博士前期課程2年の伊藤航平さん(瑞慶覧研究室所属)が静電気学会で論文賞を受賞しました。

<論文タイトル>

線対平板型電気集塵装置におけるイオン風の解析と測定

本賞は、2018年度に静電気学会誌に掲載された学術論文のうち、最も優秀な論文1件に贈られる賞で、9月12日~13日に熊本大学で行われた第43回静電気学会全国大会にて表彰されました。

受賞に際し伊藤さんは「この度は、静電気学会より論文賞という素晴らしい賞を頂くことができ、大変嬉しく思います。初めて書いた論文ということもあり、自分の研究が他の人にどのように評価されるのか不安な部分もありました。しかし、今回の受賞により自信へと変わり、研究に対するモチベーションも上がりました。また、今回の受賞は、指導教員の先生をはじめ、研究に関して様々なご指摘を頂いた共同研究先の企業の方々や研究室のメンバーなど多くの人に支えられ得ることができたものと感じています。こうした人とのつながりも大切し、今後も研究に邁進していきたいと思っております。」と喜びのコメントを寄せています。(文責:電気電子情報工学科教授 瑞慶覧 章朝)



## 卒業研究 「中間発表会」を実施

今回は、卒業研究に取り組む4年生による卒業研究中間発表での研究への「熱い思い」をお伝えします。

4年生になると卒業研究が始まります。卒業研究では各研究室に配属されて、1年間継続して研究に取り組みます。これまでの「答えのわかっていない実験」ではなく、「答えがまだわからない」（場合によっては答えが無い）実験を繰り返し、「答え」を見つけていきます。分析システムの構築や新規な化合物の合成、色々な物質の解析など、研究内容は様々ですが、それぞれが毎日、研究室で研究を進めていきます。

中間発表会では、文字通り「中間」の発表で、これまで行ってきた研究のことと、今後行いたいことを発表します（しかし、研究期間はあと3ヶ月しかありません）。この発表会は、ポスター形式で行われ、他の4年生の発表や研究内容、進捗度合いをお互いに確かめることができます。3年生や下位学年生も自由に見学でき、卒業研究の内容の把握が可能です。卒研究生といえば、進捗が順調な人も、これからの人も、発表を見て、「自分もやらなくては」と感じるなど様々ですが、残りの数ヶ月のラストパートに向けて、発表にしっかりと取り組んでいる姿が多く見られました。



## 応用化学科 様々な夏季イベントを実施

夏休み期間中、応用化学科では、高校との連携講座（厚木高校、厚木北高校）や中高大連携事業（愛川高校）、高校生が参加するサマースクール、小学生対象「いきもの調べ教室」、小学生から中学生対象の「あつぎ協働大学特別講座」（あなたも名探偵！）など様々なイベントが開催されました。化学分析や生物分析が主たる内容でしたが、これらの講座の開催を通じて「化学の楽しさ」を伝えていきます。今後も同様の講座の開催が予定されています。興味のある方はホームページをご確認ください。

<応用化学科サイト>

<https://www.chem.kanagawa-it.ac.jp>



川での採取の様子

## 4年生対象 「国家試験対策講習」を実施

臨床工学科では、8月1日～30日の期間、4年生を対象に国家試験対策講習を実施しました。講習では、1週間ごとに国家試験の形式の問題を90問ずつ配布し、学生はマークシートに解答。それを採点するという形で進めました。1週間以内に全問題を正解できるように各自教科書や参考書を調べながら学習し、ただ解答するだけでなく、各問題について自分なりの解説をノートにまとめました。4週間で合計360問、国家試験2年分の問題に取り組みました。また、電子工学、機械工学、生体計測工学、病理学、血液浄化装置学、呼吸療法装置学、臨床医学についての講義や演習も行いました。最終日には模擬試験を実施し、知識の定着を確認しました。

今後も適宜、国家試験対策講習を行い、毎月模擬試験を実施しながら、来年3月の国家試験合格を目指していきます。

（文責：臨床工学科教授 松田 康広）

## 第1種ME技術実力検定試験に 3名が合格

6月に実施された第1種ME技術実力検定試験に、臨床工学科4年生の岩田佳樹さんと小泉圭介さん、3年生の田代智探さんが合格しました。第1種ME技術実力検定試験は、「ME機器・システムおよび関連設備の保守・安全管理を中心に総合的に管理する専門的知識・技術を有し、かつ他の医療従事者に対し、ME機器および関連設備に関する教育・指導ができる資質を決定する」ことを目的に、日本生体医工学会が認定する資格です。合格率は例年20～30%です。3名は、受験資格である第2種ME技術実力検定試験に2・3年生の時に合格しています。4年生の2名については、来年3月の国家試験合格への弾みとして欲しいと思います。

（文責：臨床工学科教授 松田 康広）

## 千葉県大停電に対する JHATの活動

房総半島広域での大規模停電、断水、固定電話や3大キャリアの回線途絶、ガソリンスタンドの給油停止など多くのライフラインを寸断した台風15号。透析治療は、電気と大量の水が必須であり、これらの供給停止は患者の命に直結します。電力は最も早く復旧することが知られていますが、今回のように長引いた停電に対し本学に事務局を構える日本災害時透析医療協働支援チーム（JHAT）は、9月12日、13日に南房総地域を中心とした先遣調査を行いました。12日、3名のJHAT隊員とともに千葉県DMAT本部との情報交換を経て南房総地区への調査に向かいました。診療状況の情報が得られていない病院を巡回し、多くの病院では、電源車、自家発電、自衛隊給水車などによって、通常より短時間の透析治療が行われていました。移動中、ガソリンスタンドの長い車列、空になった店舗の飲料・食料品の棚、携帯電話の圏外、信号機停電などを目の当たりにしながら、一日目の調査が終わったのは22時を回っていました。翌日は、透析施設への電話で状況確認、調査を終了。

これまで透析医療においては、発災後の緊急的な出務は少ないとされてきました。しかし、今回のような電力会社の復旧見込み違いによる先遣調査の遅れは、被災地からの情報収集に依存した結果であり、発災時は緊急的かつ迅速な出務を念頭に先遣調査をすべきと猛省しました。

（文責：臨床工学科教授 山家 敏彦）





# KAITソーラーカープロジェクト "World Green challenge2019"グランドチャンピオン!

神奈川工科大学 KAITソーラーカープロジェクトが、8月7日から秋田県大湯村ソーラーポーツラインで行われた"World Green challenge2019"ソーラーカーチャレンジ(SC-C)部門にてグランドチャンピオン「総合優勝」に輝きました。

この大会は3日間計25時間で走行できる距離を競うもので、本学KAITソーラーカープロジェクトは、ソーラーカーレース鈴鹿から中2日という厳しい日程の中、鈴鹿大会に出場した車両「KAIT One」を仕様変更して出場しました。

大会では、全国から集まった10台でグランドチャンピオンを競い、最終日は悪天候により競技時間が1時間短縮される中、3日間計24時間で43周(1,075km)を走りグランドチャンピオンに輝きました!

KAITソーラーカープロジェクトリーダーの片淵恵史郎さん(創造工学部自動車システム開発工学科4年 神奈川総合産業高等学校出身)は、「応援してくださった皆様へ感謝すると共に、今後も自己記録更新に向けて活動していきます」とコメントしています。



## 「ETロボコン2019」 南関東地区大会に出場

9月15日・16日に、本学にて「ETロボコン2019」南関東地区大会が開催されました。

ETロボコンは、一般的なロボコンと異なり、同じ走行体(ロボット)を使い、コース上のラインに沿って走り、ゴールするまでの走行タイムと、シーソーやゲートくぐりなどの

難所によって得られるボーナスポイントから計算される競技結果と、UMLを中心に使ったモデリング(ソフトウェアの設計)の審査結果を合わせた総合結果によって優劣が決まります。つまり、競技結果が良くても審査結果が悪ければ優勝できないことがあります。また、モデリングに関しては実行委員会が教育を行っていることが特徴で、学校教育や新入社員研修などで利用されています。

ロボット・メカトロニクス学科からは1年生3名からなる「R科学生の日常」と2年生4名からなる「R2」の2チームがデベロッパー部門プライマリークラスに出場しました。

結果は18チーム中、1年生が13位、2年生が17位と残念な結果で終わりましたが、1年生チームは学生チームの中で2コースともにゴールまで走りきったことを評価され、奨励賞を頂きました。

来年は上位、さらにチャンピオンシップ大会出場を目指して欲しいです。

(文責:ロボット・メカトロニクス学科准教授 吉留 忠史)



## WRO Japan「ARC2019」優勝! 日本代表で世界大会に出場

8月20日・21日に、帝京大学宇都宮キャンパスにおいてWRO (World Robot Olympiad) Japan 2019の中の1つのカテゴリであるアドバンスド・ロボティクス・チャレンジ (ARC) が開催され、ロボット・メカトロニクス学科からは3チーム学生8名が参加し、その中の1チーム、「KAIT Specialists」(古川 紫之さん3年、土橋寛介さん3年、中屋開さん2年)が優勝しました。日本代表チームとして、11月8日~10日にハンガリーのジェールにて開催される「WRO 2019国際大会」に出場します。

今年のWROでは「SMART Cities」というテーマの下、学生たちが出場したARCは、「SMART Greenhouse」というテーマで、照明や温度環境が異なる温室とその温室内の植物を自動的に管理するロボットを製作するものでした。具体的には、2.4m×2.4mの壁のある空間に照明や温度環境が異なる温室に見立てた5色のボックスがランダムに配置され、ボックスの上に植物に見立てたキューブが置かれます。競技開始時には、ボックスの色と異なるキューブも配置され、ボックスの上にある色の異なるキューブを同じ色のボックスに運び、そのボックスに競技開始時に置かれているキューブと入れ替え、また、入れ替えたキューブをそれと同じ色のボックスへ運ぶという操作を順に行い、最後に決められた位置にロボットが戻ってくるという内容の競技です。この競技では、ロボット自身の現在位置やボックスの配置の把握、ボックスやキューブの色の判断、キューブを運ぶ機構など、ロボットの移動制御だけでなく、画像処理などの高度な技術も要求されます。

ARCのルールが発表された後、ロボットに必要な機能を抽出し、その機能を実現するためのロボットの構造やプログラムを考えると、いう作業を「ロボット開発設計ユニット」の授業や授業以外の時間を費やしてロボットを完成させ、ARCの大会に挑んできました。今年は全国から16チームが参戦。満点を出したチームは2チームしかなく、さらに、その2チームの中で競技終了までのスピードが速かったため、本学本学科の「KAIT Specialists」が優勝となりました。本チームは、昨年のARCの日本大会で準優勝し、タイのチェンマイで行われた世界大会に出場。5位入賞したもののメダルまでには届きませんでした。その悔しさもあり大会終了後から、ロボットの改良を行い、今年こそ世界の強豪チームに勝ちメダルを獲得できるよう準備を進めています。

(文責:ロボット・メカトロニクス学科教授 吉野 和芳)



## IoTで実現する未来の生活アイディアソン

～IoTを活用した素晴らしい未来の生活を一緒に考えよう～

株式会社野村総合研究所主催のアイディアソン「IoTで実現する未来の生活アイディアソン～IoTを活用した素晴らしい未来の生活を一緒に考えよう!～」が8月23日～24日まで開催され、一色研究室所属の4年生酒井貴洋さんが参加しました。全てのIoTデバイスやサービスが繋がり、サイバー空間とフィジカル(現実)空間が高度に融合したシステムが提供される社会(Society5.0)が実現したときに、時間・場所・状況の変化に伴いどのようなサービスが提供され、どのような生活が実現されるのか、アイディアを考え、競うことが今回のアイディアソンの内容でした。参加後、酒井さんは「スマートホームのモデルルーム見学やインプットセミナーを通じて、IoTデバイスやオープンデータを活用した最新のサービス・技術を体感すると共に、現状の「暮らしのIoT」における課題点について理解を深めることが出来ました。また、アイディアソンではモデルルーム見学やインプットセミナーで得た知識を基に、身近な生活において不便に感じた問題に対して文系理系、学生社会人問わずグループワークでアイディア出しを行いました。最新の「暮らしのIoT」に関するトレンドや動向を学習できたことは勿論、文系理系、学生社会人問わずグループワークで未来の生活を考え、議論し合った経験は今までにない発見や新鮮さがありました。一つの問題に対して、様々な角度から物事を捉える思考力を育む上で大変貴重な体験ができたと思います。」と話しています。(文責:ホームエレクトロニクス開発学科准教授 三橋 貴行)



## 国際学会「IWIN2019」で大学院生が学生賞・最優秀論文賞を受賞

ドイツ・ハンブルクで9月8日～11日に開催された国際学会「IWIN 2019」(International Workshop on Informatics 2018)において、安部研究室所属の大学院電気電子工学専攻2年生の赤坂幸亮さんが発表した「Victims Information Management System at Large Scale Disaster」が、Student Award(学生賞)に選出されました。同じく安部研究室所属の大学院電気電子工学専攻1年生の布施宏樹さんが発表した「A Life Watching Service by using Interactive Home Robot」がExcellent Paper Award(最優秀論文賞)に選出されました。受賞に際し二人は以下のようにコメントをしています。

赤坂さん:「国際学会の場で学生賞をいただくことができ、大変光栄に感じております。熱心に指導して下さった安部恵一准教授をはじめとして、研究に携わった方々に深く感謝いたします。学会期間中は様々な分野の発表を聴き、有意義な時間を過ごすことが出来ました。より一層、研究に励みたいと思います。」

布施さん:「国際学会では緊張しましたが、優秀論文賞を受賞でき大変嬉しく思います。初めてのヨーロッパで独自の文化を肌で感じたことや他大学の学会参加者との交流も含めて非常に良い経験になりました。改めてご指導いただいた安部先生に深く感謝致します。また、この経験を生かしてこれからも研究に励んでいきたいです。」

(文責:ホームエレクトロニクス開発学科准教授 安部 恵一)



赤坂さん

布施さん

## グローバルワークショップ開催

3年目を迎えるグローバルワークショップが8月17日～18日に本学で開催されました。本学と連携する高校の生徒と本学科の学生、さらにタイやサウジアラビアからの留学生を合わせて25名が参加。「未来の家電製品やホームロボットの機能を提案しよう」のテーマで事前に学習したレゴ®マインドストームEV3を活用し、各グループから英語を用いて提案、意見交換がなされました。

開催初日には、MHインターナショナル教育からハビック先生をお迎えし、グローバルコミュニケーションに関するワークショップ、留学生からの各国の歴史や文化を紹介するプレゼンテーションがあり、参加者はグローバル化とは何かを考えながら、世界に通じる技術について検討しました。参加高校生、学生ともに、技術のグローバル化や英語によるコミュニケーションなど幅広い体験に繋がりました。

(文責:ホームエレクトロニクス開発学科教授 金井 徳兼)



## 応用バイオ科学科におけるPBL教育

## 1年生 化学・生物学基礎ユニットプログラム口頭発表会

7月18日、1年生の口頭発表会が4つの会場で実施されました。学生は、初めての口頭発表会で緊張している様子でしたが、始まると、ほとんどの学生が堂々と発表し、また、他の学生からの質問にもきちんと答えていました。学生にとって有意義な時間であったと思います。それぞれの会場から1名の最優秀プレゼンテーション賞が発表され、次の学生が受賞しました。第1会場:石田弥々さん、第2会場:田中優哉さん、第3会場:設楽春菜さん、第4会場:風間悠海さん



## 2年生 バイオコンテスト2019

本学科では、創造力、わかりやすく伝える力、コミュニケーション能力を高めるために数名のチーム単位で様々な課題に取り組む試みを必修科目の複数の授業において実施しています。2年生の前期には、遊ぶような感覚で生命科学分野を学修できるゲームや教材(カードゲーム、ボードゲーム、アクションゲーム、



模型などの企画・開発を8名のチームで行いました。この企画では、「学修内容の決定」から「伝えたい内容を効果的に表現できる作品の形式」まで、チーム内で徹底的に意見交換して決定する過程を大切にしています。学生たちが創りあげた作品は、「三菱みなとみらい技術館(10/19開催)」と「サイエンスアゴラ2019(11/16・17)」で来場者の方に体験していただきました。



## 3年生 自主テーマ実験IIのポスター発表会を開催

3年生は、これまでの実験科目で培った技術、講義で得た知識を組み合わせ、自分たちで課題を設定して、実験によりそれを解決する自主テーマ実験を実施。立案、実験、解析どれも大変ですが、すべての班がやり遂げ、7月23日にポスター発表を行いました。本年度は、「すごいやばいあぶら～酸化した油はなぜ体に悪い～」(岡田智樹さん、海老澤瑞季さん、小泉樹さん、伊藤藍さん、太田早紀さん)が「最優秀テーマ賞」として表彰されました。



## デジタルサイネージを使った新しい食情報の提供 ～本学だからできた学部横断型 プロジェクト～

栄養生命科学科の饗場研究室と情報メディア学科の福本研究室を中心として、デジタルサイネージを使った食の情報の提供について研究を行っています。東京都多摩立川保健所から「野菜摂取促進のためのプロモーションビデオ」の制作依頼を受けて、3年前から“食とアートのコラボレーション”をプロジェクト研究の一つとして開始しました。学生がビデオの企画、絵コンテ作成、撮影、編集を行い、全て本学内で制作します。学生たちは、映像制作のスキルを磨くとともに、食教育としての情報発信について、作品制作を通して学ぶことができています。本学の管理栄養士養成学学科だからこそできる取り組みです。完成作品は、立川駅の伊勢丹ビジョンにて隔月末に放映され、東京都の動画サイト（東京動画：https://tokyodouga.jp）でも、5作品が公開中です。本学のカフェテリアでもデジタルビジョンを設置し、学生や職員の方々に野菜摂取を勧めるための情報提供のあり方の研究を開始しました。今後野菜摂取につながる食育支援につながる情報提供を行っていきます。

（文責：栄養生命科学科教授 饗場 直美）



立川駅デジタルビジョンで放映



映像制作の様子

## 「第8回国試・就活懇談会」を開催

7月20日、卒業生と本学学生による「第8回国試・就活懇談会」を開催しました。

4年生には、「私の仕事、新入社員の心構えと国家試験合格に至る



あゆみ」をテーマに3名の卒業生からお話を伺いました。社会人1年目の森川さんには市役所職員の心構えと学校栄養職員の業務について、2年目の荻野さんには老人ホームおよび病院での給食受託会社の業務、また、3年目の矢作さんには、惣菜店の地域性等を踏まえた販促などについてお話いただきました。

また、1～3年生向けには、「大学時代に描いたキャリア設計と今、私の仕事」をテーマとし、塩沢さん（本学大学院卒、社会人3年目）には行政栄養士としての保育課での仕事、4年目の西原さんには素材メーカーにおける研究開発並びに企業が行う食育、卒業3年目で給食受託会社勤務の竹宮さんには、転職を通しての仕事に対する思いを中心に伺いいただきました。

いずれもそれぞれの立場での活躍を伺い、在学生からの質問も多数寄せられて、有意義な時間となりました。卒業生のさらなるご活躍を祈念いたします。（文責：栄養生命科学科キャリア就職委員准教授 原島 恵美子・助教 楠木 伊津美）

## 高大連携講座(前期)「PCの組み立て」を開催

8月20日、21日の2日間で、高校生対象の高大連携講座(前期)「PCの組み立て」の実習が開催されました。今回で3回目の開催となります。この授業はコンピュータの中身を理解するという目的のもと、動画サイト(Youtube)を利用した授業を3回受講してもらい、その後本学において実際のPCの組み立ての実習をするというものです。授業は動画での配信となるため、高校側のスケジュールに合わせて進めることができます。その後実際に大学でPCを組み立ててもらい、OSのインストール、ネットワークの設定、サーバーの設定などを経験してもらいます。今回2日間で11校、計40名の高校生が参加しました。



PCの組み立てはまずマザーボードをケースの中に入れて配線し、その後Linux OSのインストールとネットワーク・サーバーの設定を行いました。わからない時は直ぐにサポート役の大学院生が優しく教えてくれます。生徒の皆さんは色々悩みながらも一生懸命に組み立て・設定を行い、有意義な1日を過ごしました。後期も12月に実施予定です。（文責：情報工学科教授 木村 誠聡）

## 国際シンポジウム SISA2019 に学生5名が参加

9月4日から6日、明治大学中野キャンパスにおいて電子情報通信学会主催の国際シンポジウム SISA2019 が開催され、本学科の学部生2名、大学院生3名が発表を行いました。



栢沼大地さん(情報工学科4年)「Alphabet and Number Recognition of Banknote by Using the Deep Learning」  
長沼一輝さん(情報工学科4年)「Implementation of the Elliptic Curve Cryptography over Gaussian Integral Finite Group onto Excel」  
濱村達也さん(情報工学専攻1年)「Fast Haze Removal of Fixed-point Camera Images Using Temporal Update of Transmission Map」  
鈴木拓海さん(情報工学専攻1年)「3D Reconstruction from a Single Image Considering Connected Components」  
鈴木貴士さん(情報工学専攻2年)「An Estimation of Standard Deviation of Gaussian Noise Using the Image Variation Components and the Denoising Filter」

（文責：情報工学科教授 木村 誠聡）

## 専門教育講師をお迎えしました

いしかわ かんや  
石川 敢也 講師

IT国家資格取得支援、情報工学基礎ユニット、C言語基礎ユニットなどを担当します。よろしくお願ひいたしします。

【略歴】Webサイトの企画・制作・運営を行う傍ら、読売・日本テレビ文化センターや専門学校でIT資格対策やデジタルマーケティングなどの科目を担当。著書「情報処理教科書パスクイズ222 ITパスポート試験攻略の書」、共著「情報セキュリティマネジメント 要点整理&予想問題集」(以上、翔泳社)など。法政大学専門職大学院イノベーション・マネジメント研究科(経営情報修士)、産業能率大学大学院総合マネジメント研究科(経営管理修士)修了。将棋6段。



だんおう  
段王 れい子 講師

新潟経営大学から参りました。情報処理の基礎科目を担当いたします。一人ひとりの学生に寄り添っていくことを目標に励みます。よろしくお願ひいたします。

【略歴】愛知教育大学、愛知工業大学、名古屋女子大学、名古屋産業大学等で長く非常勤講師を勤め、新潟経営大学から本学に着任。情報処理関連科目を担当。愛知教育大学大学院学校教育情報教育専攻修了。修士(教育学)。



## 本学科における教育及び研究

情報関連の研究は、学術活動のグローバル化に伴い、近年は海外発表をすることが多くなってきました。本学科においても、大学院生ばかりではなく、学部生も海外発表にチャレンジしています。赤羽秀さんは学部2年生ながらも早くも研究室に顔を出し、国際会議KES2019（開催地：ハンガリー）にて自身の研究について海外発表を行いました。題目は「An EAF guard driver to prevent shellcode from removing guard pages」で、Windowsのセキュリティ対策機能の弱点とその弱点を対策する技術の提案をしています。

赤羽さんは「大学に入る前から、CTFと呼ばれるコンピュータのハッキング技術競技に興味をもち、コンピュータ・セキュリティに関する攻撃・防御両面の技術を勉強してきました。特に研究的・先進的内容が好きで、私は学部1年の後期くらいから研究室に通って先輩の研究を参考に独自研究を行ってきました。今回の発表は先輩の卒業研究をベースにしていますが、総当たり攻撃の対象を効果的に絞ることで攻撃時間を十分分から数マイクロ秒にまで縮めることを可能とした提案で、その防御方法についても検討しています。研究進捗はもちろんのこと、論文の英語化などはかなり岡本剛先生にアドバイスをいただきましたが、発表は自身で英語で行い、質疑応答においても三つの質問に対し英語で答えることができました。発表場所のハンガリーのブダペストは大変美しい街並みで感動しました。レストランですら英語が通じず困ったことも良い思い出です。今後はWindowsベースだけではなくLinuxベースでのセキュリティ研究を考えており、まだまだ研究を続けます。」と感想を述べています。今後の活躍にますます期待が高まります。

（文責：情報ネットワーク・コミュニケーション学科准教授 岩田 一）



## 本学科学生の国際会議での活躍

### 〔NCSP2019〕

田所真澄さん(塩川研究室)

[An Effective Charging Method Considering Hotspot in Wireless Rechargeable Sensor Networks]

高橋大和さん(塩川研究室)

[Routing Control Considering Hot Spots in Wireless Chargeable Sensor Network]

道辻裕人さん(塩川研究室)

[Power Saving Using Sleep Control in DTN]

### 〔NBIS2019〕

渡辺一樹さん(岡崎研究室)

[Gait-Based Authentication for Smart Locks Using Accelerometers in Two Devices]

国内学会にも、下記の学生発表が行われました。（一部抜粋）

### 〔SeMI2019〕

高橋大和さん(塩川研究室)

[無線給電センサネットワークにおける給電効率を考慮した経路制御方式]

田所真澄(塩川研究室)

[無線給電センサネットワークにおけるホットスポットを考慮した給電方式]

### 〔ネットワークシステム研究会〕

青木弘太(丸山研究室)

[ソフトウェアパケットスイッチを用いた8K超高精細映像の切り替え処理の実現]

### 〔信学会大会2019総合大会〕

片桐草斗(丸山研究室)

[MMCFTPを用いた8K非圧縮超高精細映像素材のファイル転送]

島仲雄大(丸山研究室)

[DPDKアプリケーションのリソース最適化を目指したパフォーマンス測定ツールの検討]

### 〔DICOMO2019〕

渡辺一樹(岡崎研究室)

[スマートロックにおける異常検知を用いた二つの端末の加速度による歩行認証の提案]

## 東京ゲームショウに研究展示・ゲーム作品を出展

9月12日～15日まで、幕張メッセにて「東京ゲームショウ2019」が開催されました。情報メディア学科は本年度も神奈川工科大学ブースを出展しました。ブースでは、佐藤研究室、坂内研究室による研究展示、およびゲームクリエイータ特訓の学生ゲーム作品2作品の展示を行いました。坂内研究室では、AIが手書き風の似顔絵を描く「似顔AI君」の展示を行いました。来場者の顔をその場でAIが似顔絵にする展示を行い、好評を博していました。佐藤研究室では、スライダやロータリーエンコーダ、スイッチ等を操作して二人で協力するアクションゲーム「バッテリー」を展示し業界関係者にも高い評価を得ました。ゲームクリエイータ特訓からはラーメンの湯切り体験ができる「湯切り頂」、海洋プラスチックゴミ問題をテーマにした近未来釣り体験「フィッシングプラス」の展示を行いました。来場者楽しんでいただき、盛況だったのと同時にテレビ等も含む多数のメディアに取り上げられました。

（文責：情報メディア学科准教授 中村 隆之）



## 専門教育講師をお迎えしました

情報メディア学科では、9月から、お二人の専門教育講師をお迎えしました。専門教育講師は教育開発センターの所属ですが、本学科と密に連携を取って学科の学生教育に携わっていただいております。担当授業科目は、情報メディア基盤ユニット、情報メディア基礎ユニット、情報メディア専門ユニット等です。

おおば たかのり  
大庭 孝則 講師

立教大学文学部日本文学科卒。高等学校国語科教員として神奈川県に採用後、情報処理(商業科)と情報科の高等学校教員免許を取得。指導主事として神奈川県立総合教育センターに勤務する2007年より神奈川工科大学非常勤講師を兼務。2019年3月プログラミング教育で神奈川県教育委員会職員功績賞受賞。検索キーワードは「マイクロオセロリーグ」。



ちょう さとし  
長 聖 講師

2009年3月神奈川工科大学大学院博士後期課程工学研究科情報工学専攻退学。同大学の非常勤講師の傍らフリーランスのエンジニアとして科学館・美術館などのコンテンツ制作やIT企業の新人プログラミング教育などに携わる。近年では日本のアニメの誇張表現に興味をもつ。



## ゲストスピーカーによる特別講義を実施

7月25日、看護医療棟講義室にて、「成人看護活動論II」の授業の一環として、ゲストスピーカーによる特別講義が行われました。

講師は、骨髄バンク設立者の大谷貴子さんと認定NPO法人がんネットジャパンの池田明香さん。同講義は、元患者であるお二人に骨髄移植・臍帯血移植を受けた体験とその後について語ってもらい、学生ががん看護に必要な看護援助を考える機会とすることを目的としています。

大谷さんの講義では、25歳(1986年)で慢性骨髄性白血病を発症後、お母様からの骨髄移植により奇跡的に回復し、骨髄バンク設立に至るまでの経緯。また、がんになっても妊娠する可能性を残す「妊孕性(にんようせい)」\*などについて、その時々心の動きや看護師との関わりについてご紹介いただきました。精子・卵子凍結保存後に生まれた子どもたちの写真と体験談を紹介するスライドを真剣に見つめる学生たちが印象的でした。

続いて、池田明香さんの講義が行われました。看護師として働く29歳のとき、多発性骨髄腫の告知を受けます。当時の治療の状況や病状の推移、その後、臍帯血移植を受け回復し、地元横浜で「はまっこ(多発性骨髄腫患者・家族の交流会)」を発足するまでの経緯についてお話いただきました。

特に印象的だったのは、治療を受けながら看護師として働く池田さんが直面した「治療と仕事の両立の難しさ」でしょう。同僚との軋轢、退職を迫る職場からの圧力、薬の副作用による肺炎や末梢神経障害などの体験談を、講義を通して学生たちは共有することができました。最後に、現職である「認定NPO法人がんネットジャパン」と同NPO法人の造血幹細胞移植総合支援プロジェクト「START TO BE」\*の活動についてもご紹介いただきました。

元患者であるお二人の体験談や同じ病を抱える人々に光を与える活動は、学生たちが成人看護活動を深めていく上で様々なことを考えるきっかけとなっていくことでしょう。最後に、大野先生の「患者の病が治った後も、その後の幸せについて一緒に支えていけるような医療職に育っていただきたいと思っています」という言葉で、特別講義は締めくくられました。

\*「妊孕性(にんようせい)」

「妊孕性」とは「妊娠する力」のこと。病气(がん)に対する治療前に、受精卵や卵子・精子、場合により卵巣の組織を採取し、凍結保存することで、将来それを用いて妊娠・出産するというもの。

\*造血幹細胞移植総合支援プロジェクトStart to Beは、かながわボランティア活動推進基金21負担金事業として、神奈川県がん・疾病対策課と認定NPO法人がんネットジャパンが協働で運営している。

大谷貴子さんプロフィール

25歳(1986年)で慢性骨髄性白血病を発症。お母様からの骨髄移植が成功し奇跡的回復。その後、当時の日本になかった骨髄バンクを設立するための活動を開始。1989年10月には東海骨髄バンクを設立。1991年12月には、日本骨髄バンクの前身である(財)骨髄移植推進財団が設立される。現在は、特定非営利活動法人全国骨髄バンク推進連絡協議会の顧問として、白血病患者の方々への支援の和を広げるため、全国各地での講演に精力的に取り組んでいる。

池田明香さんプロフィール

看護師、29歳(2004年)で多発性骨髄腫と診断。臍帯血移植が成功し回復。元患者としての体験を元に、地元横浜で「はまっこ(多発性骨髄腫患者・家族の交流会)」を発足し、交流会や医療講演会を開催。また、虎の門病院にて院内患者・家族のおしゃべり会の世話人としても活動。2017年11月からは、看護の現場を離れ、認定NPO法人がんネットジャパンにて、主に血液疾患のプロジェクトに携わる。



大谷さん



池田さん

## 新任教員紹介



<成人看護学領域>  
助教 奈良 唯唯子



<成人看護学領域>  
助手 貝沼 オリエ



<老年看護学領域>  
助手 佐藤 綾香



<母性看護学領域>  
助手 松沢 祐子

「KAIT191号」において次の通り誤りがありました。

ここに訂正いたします。

新任教員紹介

(誤) <在宅看護学領域>教授 入江 慎治

(正) <公衆衛生看護学領域>教授 入江 慎治

## KAITニュース

### 第4回先進自動車技術に関する 大学連携国際シンポジウムを開催

神奈川工科大学において、9月4日～6日、「第4回先進自動車技術に関する大学連携国際シンポジウム」(4th International Symposium on Advance Vehicle Technology, 略称: ISAVT 2019)が開催されました。

2016年の初回開催から4回目となる今年のシンポジウムには、日米欧亜の11大学と産業界などから合わせて158人が参加。車両運動制御、自動運転、パワートレイン、ヒューマンインターフェースなどさまざまな分野の研究成果の発表がありました。

海外からは、米国のミシシッピ州立大学、ドイツのケンペン応用科学大学、英国のコベントリー大学、韓国のソウル国立大学、タイのチュラロンコン大学とラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校、国内からは神奈川工科大学のほか、日本大学、名古屋大学、同志社大学、東京農工大学の参加がありました。

基調講演には、神奈川工科大学の安部正人名誉教授、ソウル国立大学のキョンスーイ教授、産業界からはコンチネンタル・オートモーティブ、堀製製作所、テフ、エヌヴィディアの幹部が登壇しました。

本シンポジウムの最後を締めくくるパネルディスカッションでは、自動運転や新技術が単に新しさを追うのではなく、自動車技術が安全や消費者、そして社会に貢献してきた大事な歴史観とダイナミクスなどの基礎的観点から、新技術の方向性を議論し共有することができました。更に、この方向性に対し、若いエンジニアの育成についても、より具体的な方策を共有することができました。

本シンポジウムの期間中を通して、スピーカーや協賛企業の皆様、組織委員、運営スタッフの皆様すべてが明るい笑顔に満ち溢れていました。これは、質の高い発表と活発な議論、ウェルカムパーティでの懇親、更には、バンケットやテクニカルビジットを通して日本文化に深く触れ、大学間、産学間、国境間の垣根を超えて、文化と技術の交流がもたらした結果とも言えます。

神奈川工科大学では、今後ともグローバルな視点で、基礎と先進を融合した自動車研究に学生と共に精進し、文化の違いと一緒になって、豊かで快適なモビリティ社会の形成に貢献していきます。

<ISAVT 2019 General Chair>

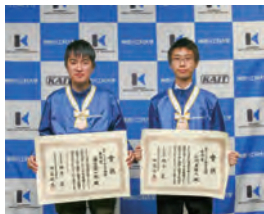
神奈川工科大学 自動車システム開発工学科 教授 井上 秀雄



## 第57回技能五輪全国大会 「移動ロボット部門」に出場が決定

ホームエレクトロニクス開発学科の小川実結人さん3年と、藤田優一郎さん1年が、7月31日～8月1日に、福岡国際会議場で行われた若年者ものづくり競技大会「ロボットソフト組込み職種部門」にて敢闘賞を受賞。主催の中央職業能力開発協会から推薦を受け、11月15日～17日に行われる第57回技能五輪全国大会「移動ロボット部門」に出場が決定しました。

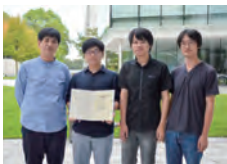
小川さんと藤田さんは沼津工業高校出身で、高校時代からロボット制御部に所属する先輩と後輩の仲であり、WROや地域のロボット制作教室で子ども達に教えるなど活発に活動を行ってきました。



藤田さん(左)、小川さん(右)

## 「Hack U 2019 TOKYO」で情報工学専攻の大学院生チームがヤフー賞を受賞

8月10日に、ヤフー主催のハッカソン「Hack U 2019 TOKYO」がヤフー本社で開催され、大学院情報工学専攻1年の中島悠輔さん、武藏島雄理さん、渡邊啓太さん、黒澤優輝さん(坂内研究室所属)の4名からなるチームの作品「Tumちゃんキッチン」がYahoo賞を受賞しました。この作品は、スマートフォンのカメラでいろいろな食材を撮影すると、その食材を使ったレシピが瞬時にスマートフォンに表示されるアプリケーションです。食材の画像はディープラーニングのアルゴリズムを用いて認識され、認識された食材のデータがレシピ紹介の検索エンジンに送られて、お薦めのレシピの一覧が表示される仕組みです。審査員からは、アイデアのみならず画像認識精度の高さなどプログラム開発スキルが高く評価されました。(文責:情報メディア学科教授 坂内 祐一)



## ワールド・トーナメントに日本代表で出場！ 驚異の打率.542で準優勝に貢献

ホームエレクトロニクス開発学科4年の長嶋亮磨さん(硬式野球部)が、神奈川大学野球連盟の選抜チームに選出され、オランダのロッテルダムで開かれた国際大会、ワールドポート・トーナメントに日本代表として出場しました。

今大会は7月12日から9日に開催され、開催地オランダの他、日本、アメリカ、台湾、蘭領キュラソーの5チームが参加。日本勢としては一昨年に並ぶ大会過去最高の準優勝となりました。

長嶋さんの活躍は目覚ましく、19日の予選ラウンド蘭領キュラソー戦では、4打数3安打を決め、4-2のピハインドで迎えた9回表には起死回生の同点タイムリーツーベースを打ち、MVPIに選ばれました。

また、大会を通して24打数13安打、打率.542(打率ランキング大会2位)という驚異の成績で打線を牽引し、チームを準優勝に導きました。

長嶋さんは、「試合は、日本の学生野球のような雰囲気ではなく、プロ野球のような「お祭り」のような雰囲気でした。楽しんでプレーすることが出来て良かったです。また、オランダの街並みや風景を観に色々な場所に行き、日本との違いを肌で感じる事ができました。料理はやはり日本食の方が美味しいです。この2週間は、自分にとってとても良い経験となりました。」と話しています。



アメリカ戦で打席に立つ長嶋さん

## 応用化学・バイオサイエンス専攻の大学院生が第56回下水道研究発表会英語ポスター部門で最優秀賞を受賞

下水道関連で国内最大の研究発表会である第56回下水道研究発表会の英語ポスター発表部門で、大学院応用化学・バイオサイエンス専攻2年杉之間大貴さん(局研究室所属:応用バイオ科学科卒業生)が最優秀賞を受賞しました。

<発表題目>

Creation of reducing agent by waste paper decomposition for advanced waste water treatment

杉之間さんの研究内容は、廃棄古紙を生物分解して、排水処理の還元剤として利用するとともに、未分解繊維分による汚泥の脱水性向上を達成することを目指したもので、処理水水質の改善と処理エネルギーの低減の両立を目指した研究です。英語ポスター部門での私立大学所属学生の受賞は最優秀賞・優秀賞を含め今回の受賞が初めてのものととなります。

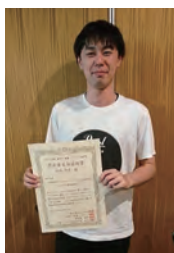


(文責:応用バイオ科学科教授 局 俊明)

## 情報工学専攻の大学院生が国際会議で「Outstanding Paper Award」を国内研究会で技術委員会奨励賞を受賞

大学院情報工学専攻1年の安部功亮さん(田中哲雄研究室所属)が、7月に富山で開催された国際会議IIAI AAI 2019で、「Outstanding Paper Award」を受賞しました。この賞は約440件の投稿からBest Paperに次いで優秀な論文数件に贈られるものです。安部さんは、C言語初学者のための開発・実行環境を他の学生と共同で試作し、「Prototype of Visual Programming Environment for C Language Novice Programmer」と題して発表し、その成果が認められました。

安部さんは、5月にも「電気学会 電子・情報・システム部門 技術委員会奨励賞」を受賞しています。受賞対象は情報システム研究会で発表した「穴埋め式ワークブックシステムの実用化に向けた機能拡張」です。この研究会では、年4回開催される研究会での若手研究者の発表のうち優秀な数件が表彰されます。(文責:情報工学科教授 田中哲雄)



平成30年度「私立大学研究ブランディング事業」

## 全国のモデルとなる 先進高齢者支援システムの開発と 地域社会への展開

前号では、神奈川工科大学研究ブランディング事業の全体についてご紹介しました。  
今回はその後の進捗と今後の予定についてお知らせします。

### 進捗状況

研究に関しては、2020年度の利用実験に向け、KSC-P (Kanagawa Smart Care Platform)の要素機能群(生活空間、自動車、コミュニケーション・ロボット、ロコモ診断システム、AIシステム)の間で送受信されるデータ形式の設計を進めています。また、これらのデータを格納し、生活支援のための情報を生成するAIシステムの構築に着手しています。更に、高齢者支援サービスに関するアンケートを地域の高齢者に実施してニーズの更なる明確化を図りました。

ブランディング戦略に関しては、パンフレットの作成、オープンキャンパスでの事業紹介、各地域の進学アドバイザーへの説明、新聞への掲載、ラジオコマーシャル、広報誌KAITへの掲載等本学のブランディング事業に対する認知を浸透させています。



### 今後の予定

11月30日(土)に「全国のモデルとなる先進高齢者支援システムの開発と社会展開」というテーマで、「研究ブランディング事業シンポジウム2019」を開催します(参加費無料)。神奈川県、厚木市等にご後援をいただいています。また、NTTの篠原会長に基調講演をいただきます。更にこれまでのシステム構築の進捗状況を報告するとともに、ICTを活用した高齢者支援についてパネルディスカッションを実施します。

詳しくは、本学ホームページ「イベント情報」<https://www.kait.jp/topics/branding/> をご参照ください。  
どなたでも参加できますので、ぜひ参加の登録をお願いします。

11:00～13:00	パネル展示
12:00～13:00	受付
13:00～17:00	開会(来賓挨拶・基調講演・研究紹介・パネルディスカッション等行います。)

## 平成30年度(2018)決算報告

### 1. 資金収支計算書

資金収支計算書は、教育研究等の諸活動に要する1年間の資金の収入・支出をみるもので支出に対する収入がどのように調達されているかわかります。また、借入金や固定資産等が全体の収支にどのように影響しているかわかります。

平成30年度収入は8,852百万円、支出は8,735百万円となりました。当年度収支差額は、付随事業収入等の増収から予算を273百万円上回りました。

#### 収入の部

(単位:百万円)

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	7,005	7,023	△18
手数料収入	93	123	△30
寄付金収入	16	21	△5
補助金収入	674	714	△40
資産売却収入	300	302	△2
付随事業・収益事業収入	182	236	△54
受取利息・配当金収入	58	57	1
雑収入	226	262	△36
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	1,402	1,526	△124
その他の収入	440	291	149
資金収支調整勘定	△1,650	△1,702	52
当年度資金収入合計	8,746	8,852	△106
前年度繰越支払資金	6,214	6,214	
収入の部合計	14,960	15,066	△106

- 学生から納入された学費などです。
- 文科科学省等から交付される経常費補助金などです。
- 有価証券売却収入です。
- 現金、有価証券の利息・配当金などです。
- 平成30年度に納入された平成31年度入学生分の学費などです。
- 期末未収入金および前期末前受金です。

#### 支出の部

(単位:百万円)

科目	予算	決算	差異
人件費支出	4,719	4,761	△42
教育研究経費支出	2,182	2,193	△11
管理経費支出	793	735	58
借入金等利息支出	9	9	0
借入金等返済支出	78	78	0
施設関係支出	425	404	21
設備関係支出	140	156	△16
資産運用支出	200	200	0
その他の支出	924	791	133
資金支出調整勘定	△620	△591	△29
当年度資金支出合計	8,902	8,735	167
翌年度繰越支払資金	6,058	6,331	△273
支出の部合計	14,960	15,066	△106
当年度資金収支差額	△156	117	△273

- 教育研究のために支出する経費です。
- 法人の管理運営、学生募集に支出する経費です。
- 建物、構築物等、施設を取得するための支出です。
- 有価証券を購入する支出です。
- 期末未払金および前期末前払金です。

### 2. 事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、毎年度の経営状況を示すものです。事業活動支出は、学校法人が教育研究等の諸活動に使用する取得価額の対価であり、事業活動収入は、事業活動支出に充てる収入で負債性のない収入から資本的支出(基本金組入額)を除いたものです。事業活動収入と事業活動支出を対比することにより、収入超過か支出超過かわかります。

事業活動収入は、予算を191百万円上回る8,466百万円となりました。支出面は経費削減等により予算を59百万円下回る8,902百万円となりました。この結果、基本金組入前当年度収支差額は437百万円の支出超過となりました。

#### 収入の部

(単位:百万円)

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	7,005	7,023	△18
手数料	93	123	△30
寄付金	20	26	△6
経常費等補助金	674	714	△40
付随事業収入	182	236	△54
雑収入	226	262	△36
教育活動収入計	8,201	8,384	△183
人件費	4,704	4,733	△29
教育研究経費	3,336	3,353	△17
(内 減価償却額)	(1,154)	(1,155)	(2)
管理経費	840	782	58
(内 減価償却額)	(47)	(47)	(0)
徴収不能額等	0	3	△3
教育活動支出計	8,880	8,871	9
教育活動収支差額	△680	△487	△193
受取利息・配当金	58	57	1
その他の教育活動収入	0	0	0
教育活動外収入計	58	57	1
借入金等利息	9	9	0
その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計	9	9	0
教育活動外収支差額	48	48	0
経常収支差額	△631	△439	△192
資産売却差額	0	0	0
その他の特別収入	17	25	△8
特別収入計	17	25	△8
資産処分差額	21	23	△2
その他の特別支出	0	0	0
特別支出計	21	23	△2
特別収支差額	△4	2	△6
基本金組入前当年度収支差額	△686	△437	△249
基本金組入額合計	△388	△471	83
当年度収支差額	△1,074	△908	△166
前年度繰越収支差額	△11,811	△11,811	0
基本金取崩額	0	0	0
翌年度繰越収支差額	△12,885	△12,719	△166
(参考)			
事業活動収入計	8,275	8,466	△191
事業活動支出計	8,961	8,902	59

- 一般寄付金および特別寄付金に加え、科学研究費補助金等により購入した機器備品および寄贈された物品である現物寄付金が含まれます。
- 不要となった資産の除却損、有価証券の評価損等です。
- 事業活動収入計から事業活動支出計を差し引いた金額です。



### 3. 貸借対照表

貸借対照表は、年度末における資産・負債・基本金および繰越収支差額の状態を表示し年度末時点での財政状態がわかります。

固定資産は減価償却の進捗を主因として659百万円減少しました。なお、正味財産(基本金+繰越収支差額)は、26,585百万円、自己資金構成比率は85.1%となりました。

(資産の部)		(単位:百万円)		
科目	本年度末	前年度末	増減	
固定資産	23,717	24,376	△ 659	
有形固定資産	20,743	21,385	△ 642	
特定資産	1,878	1,894	△ 16	
その他の固定資産	1,095	1,097	△ 2	
流動資産	7,510	7,465	45	
合計	31,227	31,842	△ 615	

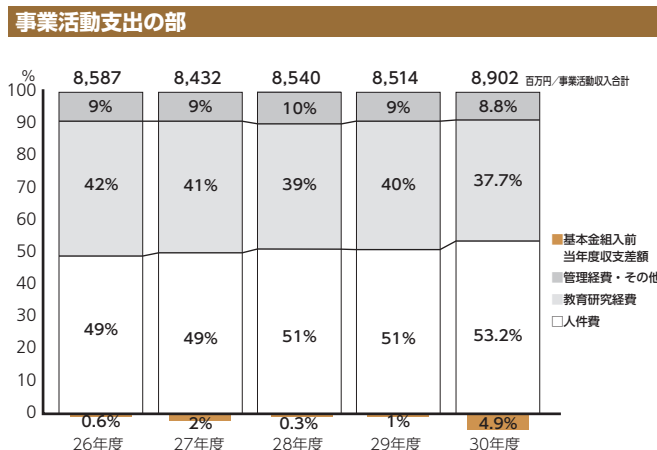
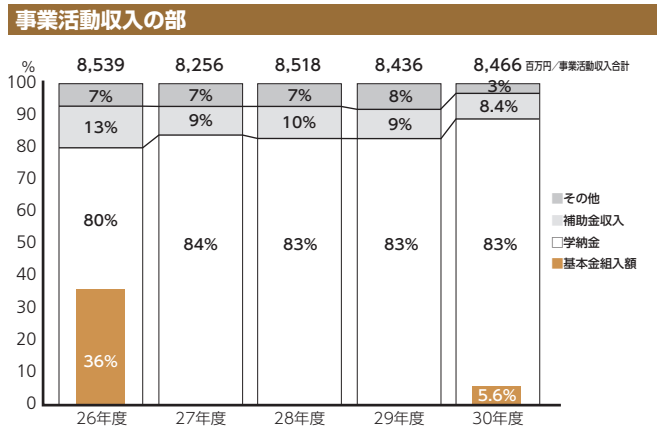
(負債の部)		(単位:百万円)		
科目	本年度末	前年度末	増減	
固定負債	2,188	2,384	△ 196	
流動負債	2,454	2,436	18	
合計	4,642	4,820	△ 178	

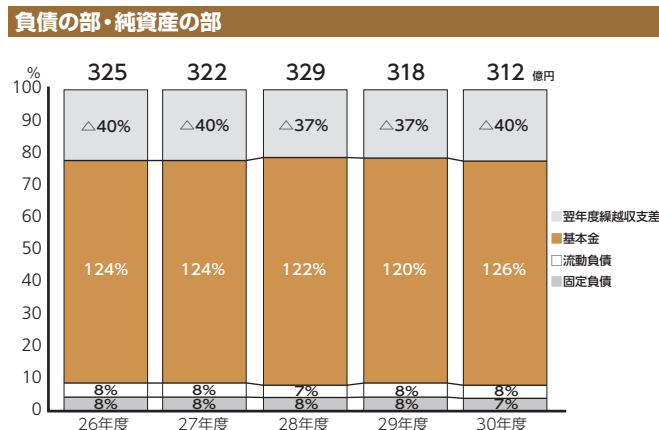
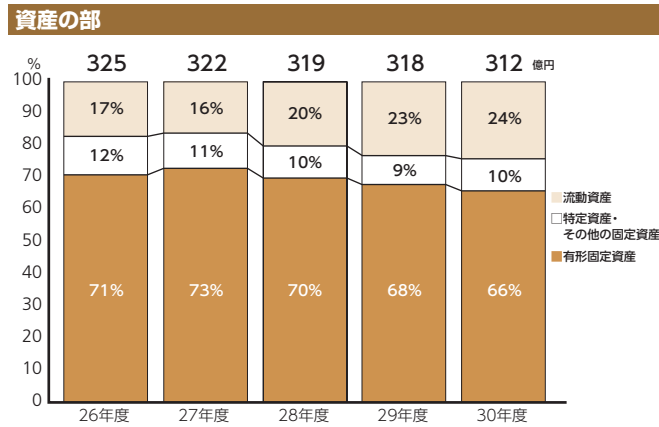
(純資産の部)		(単位:百万円)		
科目	本年度末	前年度末	増減	
基本金	39,303	38,832	471	
繰越収支差額	△ 12,719	△ 11,811	△ 908	
合計	26,585	27,021	△ 436	
負債及び純資産の部合計	31,227	31,842	△ 615	

## 5カ年 収支状況及び財務状況推移表

### 事業活動収支計算書(収支状況)構成比率



### 貸借対照表(財務状況)構成比率



本学の事業報告書・決算書及び事業計画書・予算書は本学ホームページに掲載しておりますので、ご参照下さい。

# Office Information

オフィスイノベーション

## 経営管理本部 総務課

### 理事に対する本部長職・室長職委嘱

2019年10月1日付け  
常務理事 河野 隆二 学生支援本部長およびIR・企画推進室長委嘱

### 教職員の人事発令

2019年6月1日付け  
【任期制助手新規採用】  
看護学部看護学科 任期制助手 松沢 祐子  
看護学部看護学科 任期制助手 佐藤 綾香

2019年6月17日付け  
【嘱託職員新規採用】  
工学教育研究推進機構技術支援室所属 栄養生命科学学科配属  
横内 みのり

2019年7月1日付け  
【教育職員委嘱発令】  
学長補佐(A)推進担当 松本 一教

【任期制助手新規採用】  
応用バイオ科学部栄養生命科学学科 任期制助手 藤原 卓巳

【嘱託職員新規採用】  
工学教育研究推進機構技術支援室所属 栄養生命科学学科配属  
古東 美菜子

2019年7月23日付け  
【教育職員死亡退職】  
応用バイオ科学部 応用バイオ科学科 教授 岡部 勝

2019年7月25日付け  
【出向者受入れ】  
工学教育研究推進機構 機構支援室所属  
創造工学部 自動車システム開発工学科配属 加藤 卓実

2019年9月1日付け  
【任期制教員新規採用】  
看護学部看護学科 任期制助教 奈良 唯唯子  
教育開発センター 専門教育講師 大庭 孝則  
教育開発センター 専門教育講師 長 聖  
教育開発センター 基礎教育講師 谷戸 光昭  
教育開発センター 基礎教育講師 宮城 学  
教育開発センター 基礎教育講師 浅川 友幸  
教育開発センター 基礎教育講師 小田切 祐詞

【期間の定めのない労働契約への転換】  
非常勤講師 楠 秀樹

【教育職員所属変更】  
基礎・教養教育センター 教授 石綿 良三

2019年9月30日付け  
【任期制教員退職】  
看護学部看護学科 助教担当 日野 徳子

2019年10月1日付け  
【任期制教員新規採用】  
教育開発センター 専門教育講師 吉川 紀夫  
教育開発センター 専門教育講師 松浦 れい子

【任期制助手新規採用】  
応用バイオ科学部栄養生命科学学科 任期制助手 島影 智枝  
看護学部看護学科 任期制助手 貝沼 オリエ

【教育職員配属先変更】  
工学教育研究推進機構 特任教授 兎澤 恵子

【事務職員異動】  
学生支援本部 学生課 専任課長 日高 一敏  
経営管理本部 総務課 課長代理 学生支援本部 図書館サービス課 課長代理 兼務 監査室監査員 兼務 梶浦 潤一  
学生支援本部 教務課 主任 天貝 正吾  
経営管理本部 企画入学課 主任 篠塚 保昭  
学生支援本部 キャリア就職課 准主任 卒業生支援課 准主任兼務 天野 夏子  
経営管理本部 財務課 准一般職 外部資金課 准一般職兼務 島村 純平

【任期制助手新規採用】  
看護学部看護学科 任期制助手 松沢 祐子  
看護学部看護学科 任期制助手 佐藤 綾香

【嘱託職員再雇用】  
学生支援本部 教務課 栄養生命科学学科国家試験対策室  
奈良 由美子

【出向者受入れ】  
工学教育研究推進機構 機構支援室所属  
創造工学部 自動車システム開発工学科配属 小山 翔太郎

## 管財課

### エコ活動の報告 尾瀬で外来植物除去ボランティア活動を実施

「学生ECO推進チームみどり」は、9月12日に尾瀬国立公園内の嶋待山荘周辺で国立公園を管理されている東京電力グループ企業の皆様に協力いただき、セイウタンポポ等の外来植物除去のボランティア活動を実施しました。また、尾瀬の木道を歩きごみ拾い活動も実施しました。今年で4年目となりましたが、引き続き尾瀬の生態系保護活動を実施していく予定です。



## 学生支援本部

### 教務課

#### 今後の主な予定

■後期授業関連  
勤労感謝の日(通常授業日):11月23日(土)  
補講日:12月25日(休)  
冬期休業期間:12月26日(休)~1月5日(日)  
授業再開:1月6日(月)  
補講日:1月14日(火)  
後期授業終了日:1月25日(土)  
後期定期試験期間:1月27日(月)~1月29日(水)、2月3日(月)、2月4日(火)  
追試期間:2月12日(火)~2月14日(金)  
■学位記授与式・卒業式:3月20日(金)

## 教職教育センター

### 令和2年度採用(令和元年度実施)教員採用試験結果(2019/8/21 現在)

今年度の教員採用試験における本学の学生及び卒業生の一次合格者は「表3」の通りです。公立学校の一次合格については17名となり、その内現役での合格者数は昨年と同じく9名になりました。

( )内は昨年

表1	校種	人数	受験教科	
			人数	(昨)
72(68)	中学	22(21)	数学	9(6)
			理科	7(8)
			技術	6(7)
	高校	44(40)	工業	11(6)
			理科	22(17)
			数学	7(8)
小学校	6(7)	情報	4(9)	
		栄養	5(7)	
合計	72(68)	他	1(0)	
		合計	70(68)	

※72=22(現役生)50(卒業生)

表2	都道府県	人数
76(72)	青森	0(2)
	山形	0(4)
	秋田	1(1)
	岩手	1(1)
	福島	1(0)
	栃木	0(1)
	茨城	0(1)
	群馬	2(3)
	埼玉	2(1)
	さいたま市	1(2)
	千葉	1(0)
	東京	1(0)
	神奈川	48(44)
	横浜市	1(1)
	川崎市	2(2)
	相模原市	1(1)
	山梨	3(0)
	新潟	1(1)
	新潟市	1(0)
	長野	2(1)
	静岡県	4(4)
浜松市	1(0)	
岐阜	1(0)	
高知	0(1)	
宮崎	1(1)	
延べ数		76(72)

表3 神奈川工科大生の状況(一次)

一次合格者数 17(24)	教科等	人数	合格県内訳	
			神奈川県	他
	技術	3(4)	神奈川 2	長野 1
	中学数学	1(1)	神奈川 0	横浜 1
	中学理科	1(7)	神奈川 1	
	高校理科	4(2)	神奈川 3	千葉 1
	情報	0(4)	神奈川 0	
	工業(機)	4(2)	神奈川 4	群馬 1
	工業(電)	3(3)	神奈川 0	川崎 1 山梨 1
	工業(情)	0(0)		
	栄養	1(1)	秋田 1	
	計	17(24)	神奈川 10	他 7

※17=9(現役生)、8(卒業生)

## 学生課

### 主な行事(後期)

#### <地域交流イベント>

第27回幾徳杯少年野球大会:11月2日(土)~11月10日(日)

第17回幾徳杯ゲートボール大会:11月10日(日)

第26回幾徳杯少年サッカー大会:11月23日(土)・24日(日)

#### <お知らせ>

インフルエンザ予防接種(希望者):11月18日(月)

新4年生・大学院前期新2年生対象(就職活動用)健康診断:2020年2月6日(水)・7日(木)

(新2年生・新3年生及び1月末未受診者対象健康診断は4月上旬に実施)

## キャリア就職課

### 2021年卒生対象本学主催合同企業説明会

業界職種研究会(大手企業中心80社予定)

12月14日(土)／本学体育館(KAITアリーナ)

業界職種研究会【静岡県版】(静岡県内50社予定)

12月26日(水)／ホテルアンソニア静岡

第1回業界説明会(220社予定) 2月12日(水)・13日(木)・14日(金)／レンブランドホテル厚木

※合同企業説明会に参加する前に、以下の講座に出席してください。

「合同企業説明会の歩き方講座」12月10日(火)・11日(水)5限



### 後期就活セミナー以外の研修会を実施します

#### <面接対策研修会>

2日間集中 [定員100名] 11月9日(土)、10日(日)／本学

他大学合同合宿 [定員12名] 12月7日(土)、8日(日)／リソル生命の森(予定)

合宿(1泊2日) [定員80名] 2月8日(土)、9日(日)／マホロバ Mainz浦三浦(予定)

<OBが語る企業紹介～業界別企業4社によるパネルディスカッション～(全年対象)>

メーカー系:12月3日(火)5限

IT系:12月4日(水)5限

化学系:12月5日(木)5限

#### <県別ガイダンス(全年対象)>

12月6日(金)5限

(秋田、岩手、山形、宮城、福島、茨城、栃木、群馬、山梨、長野、新潟、静岡、その他)

#### <地方就職セミナー(全年対象)>

12月13日(金)5限

## 大潟村ソーラーカーラリー 神奈川工科大3度目V

KAITソーラーカープロジェクト

### 大潟村ソーラーカーラリー 神奈川工科大3度目V 計43周、快調に飛ばす

ソーラーカーとソーラーバ科大ソーラーカープロジェクトの2019ワールド・グリーン・チャレンジャー大会、大潟村のソーラーカーラリーで、神奈川工科大が計43周で3度目の総合優勝を飾った。大会は組織委員会の主催。最終日は雨の影響でスタートが1時間遅れ、制限時間も伸びた。県内外からエントリーした18台が3日間計24時間走り、1周25kmのコースを周回し、順位を競った。神奈川工科大は初日に2回、

のバンクに見舞われたが、徐々に調子を上げ終了時点で暫定1位。バッテリーに余裕があったという2日目は快調に飛ばして距離を伸ばし、最終日も首位をキープした。

代表の片渕恵郎さん(21)は「創造工学部4年目はチーム全員が役割を果たせたのが結果につながった。いい走りが出てうれしかった。これから総合成績の2位は東海大熊本ソーラーカーチーム(熊本県)と、3位は夢考房ソーラーカープロジェクト(石川県)だった。(三浦ちひろ)



秋田魁新報 / 2019年8月11日掲載

## スリランカに車椅子46台を届ける

KWR修理屋

### スリランカに車椅子46台

#### テロ負傷者に贈る

スリランカで4月に起きた連環テロの負傷者のために、大潟区の大森学園高の生徒ら46台の車椅子を贈る。生徒らは「生徒会の一環として参加した」と話している。

同校は、福祉院や病院で使われていた車椅子を回収し、ボランティアで修理した。車椅子は7月中旬に到着し、現地で児童福祉センターの職員らに引き渡された。大森学園高の生徒らは「生徒会の一環として参加した」と話している。

2000年からボランティア  
大森学園高の生徒ら修理

と話し、車椅子は7月中旬に到着し、現地で児童福祉センターの職員らに引き渡された。大森学園高の生徒らは「生徒会の一環として参加した」と話している。

毎日新聞 / 2019年8月12日掲載

## 先進自動車技術に関する 大学連携国際シンポジウムを開催



シンポジウム委員長を務めるKAITの井上秀雄教授は「自動車の先進技術に取り組

### 11大学が将来像を議論

大学連携国際シンポジウム「自動車関連技術で」

大学の自動車工学の最新成果を発信する「第4回先進自動車技術に関する大学連携国際シンポジウム(TS-AVT 2019)」が4日、神奈川工科大学(KAIT)、神奈川県厚木市)で開催された。5日まで2日間の日程で、日米欧、アジアの11大学の研究者ら24人が登壇。車両運動制御や自動運転、パワートレイン、ヒューマンインタフェース、モノコック構造などについて、国内からはKAITのほか日本大学、名古屋大学、同志社大学、東京農工大学が参加した。

また、基調講演にはコンチネンタル・オートモーティブや旭硝子製作所、テュフ、エヌヴィディアの幹部が登壇した。

シンポジウム委員長を務めるKAITの井上秀雄教授は「自動車の先進技術に取り組

日刊自動車新聞 / 2019年9月5日掲載

む大学の国際交流を深める絶好の機会だ。その成果を豊かで活気あふれる社会づくりに役立てていきたい」と開催の狙いを述べた。

## 先進自動車技術 意義ある大学連携

自動車システム開発工学科 井上秀雄教授

日刊自動車新聞 / 2019年9月30日掲載

## 教員向けプログラミング学習

ホームエレクトロニクス開発工学科 金井徳兼教授



金井教授(右)の指導でプログラミングを体験する教員=三島市立北上中

教員向けプログラミング学習 必修化見据え基礎学習が三島市内の小中学校で進む。三島市内の小中学校で進む必修化見据え基礎学習が三島市内の小中学校で進む。三島市内の小中学校で進む。必修化見据え基礎学習が三島市内の小中学校で進む。

三島市内の小中学校で進む必修化見据え基礎学習が三島市内の小中学校で進む。三島市内の小中学校で進む。必修化見据え基礎学習が三島市内の小中学校で進む。

静岡新聞 / 2019年8月9日掲載

## 栄養素吸収と免疫力アップ

栄養生命工学科 饗場直美教授

神戸新聞 / 2019年9月30日掲載

## 第2回 北里大学・神奈川工科大学医工連携シンポジウム

# 「医工連携が拓く医療イノベーション」を開催

9月3日、神奈川工科大学において「医工連携が拓く医療イノベーション」をテーマに「第2回北里大学・神奈川工科大学医工連携シンポジウム」を開催しました。

本学と北里大学は、2017年5月に、本学の「工学」と北里大学の「医療」という、互いの強みを活かした相互の発展と新たな価値の創造を目指すため連携協力の協定を締結。今回は、昨年2月に北里大学相模原キャンパスにて開催されたキックオフシンポジウムに続く2回目となります。当日は、本学小宮一三学長の開会挨拶に続き、両大学から5名の教員が登壇。企業、官庁、研究機関、大学関係者など約50名が参加し、熱心に聴講されました。

本学からは3名の教員が研究・開発の成果や活動状況について発表しました。

### 「ルチア&ぐるみ ～共生型ロボットとリハビリ・介護～

神奈川工科大学創造工学部 ロボット・メカトロニクス学科 三枝亮准教授

共生型ロボットのルチア（研究モデル）&ぐるみ（普及モデル）の機能や特性、また、介護施設や特別支援学校などでの実証実験について紹介。

### 「高齢期における運動機能評価」

神奈川工科大学創造工学部 ロボット・メカトロニクス学科 高橋勝美教授

高齢者の生活体力の測定方法から運動機能の評価、また、心身の健康状態を測定して、見える化できるセルフチェック型の測定装置「健幸aiちゃん」の産学官医連携による実証実験の状況などを紹介。

### 「災害時の透析医療支援活動」

神奈川工科大学工学部 臨床工学科 山家敏彦特任教授

災害時の透析医療を支援するJHAT「日本災害時透析医療協働支援チーム」の活動、及び、災害時の活動が必要とされるシステムや本学教員が研究・開発に取り組む発電やネットワークなどの技術について紹介。

閉会の挨拶として、北里大学 伊藤智夫学長より各発表についての感想と「北里大学と神奈川工科大学の連携を地道に続けていくことで大きな成果につながることを期待している」という言葉をいただき、閉幕しました。同シンポジウムを通して共有された知識や情報が、聴講者それぞれの場所で活かされるとともに、両大学の連携がより良い形で継続していくことを願っております。



## 「読書コンテスト2019」を開催

神奈川工科大学読書コンテストは、学生の主体的な学びを励まし、文章作成・発表の実践力を培うことを目的とした読書感想文とプレゼンテーション審査からなるコンテストです。

今年度は75作品の応募があり、9月20日、読書感想文による一次審査を突破した10名にて公開プレゼンテーション最終審査が図書館1階で行われ、学長賞および各賞が決定しました。



### <審査結果>

#### 学長賞

青山 莉奈さん (応用バイオ科学科3年)

#### 図書館長賞

瀧ノ上 健太さん (情報メディア学科1年)

#### 紀伊國屋書店賞

八巻 拓海さん (情報メディア学科3年)

#### 会場賞

徳永 明優奈さん (情報ネットワーク・コミュニケーション学科1年)

#### 優秀賞

小路 佳斗さん (情報工学科2年)

稲村 泰我さん (情報メディア学科3年)

前田 洸希さん (情報メディア学科3年)

石田 伸幸さん (情報工学科2年)

岡本 李輝さん (情報ネットワーク・コミュニケーション学科1年)

藤田 淳宏さん (情報メディア学科3年)

## ホームカミングデーを開催しました

11月2日、幾徳祭の初日に「ホームカミングデー2019」が開催されました。600名を超える卒業生の方がキャンパスに集い、第一食堂において、懇親会が行われ、本学教職員、同窓生との再会で旧交を温めていただきました。

